

【学会見聞録】

第41回日本基礎老化学会シンポジウム

前原 佳代子

畿央大学 健康科学部 健康栄養学科

大学院 健康科学研究科

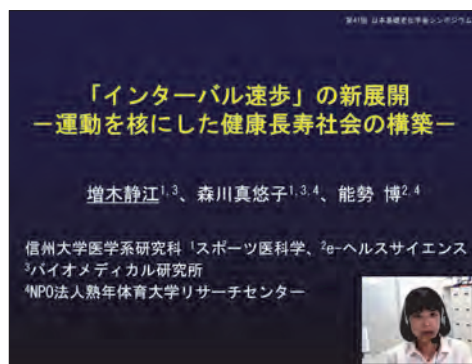
2020年11月13日、14日の両日にWEB開催された第41回日本基礎老化学会シンポジウムを視聴しました。

昨年のシンポジウムは、自然災害による延期、延期された日時が所属大学での短期集中講座の日程と重なり、不参加でした。今年は新型コロナウイルス感染症のため、開催がどうなるのかと思っていたところに、三浦先生と堀田先生から案内メールが届きました。WEB開催であること、シンポジウムのご講演が両日とも同じ時間に配信されることを知り、さっそく参加登録をしました。

第41回シンポジウムのテーマ「健康長寿の基礎 — 実験動物からヒト長寿モデルへ」に沿って、5人の先生方からモデル動物からヒトを対象とした健康長寿の研究成果についてご講演がありました。参加登録者は、WEB開催時間に事務局から配信されたURLをクリックするだけで、事前に演者の先生方が作成された動画を視聴できるという、参加者にはストレスがなく、ネットワーク環境による視聴トラブルもなく、しかも参加費無料という3つのフリー尽くしの状況で、興味深い5つのご講演を視聴できました。

信州大学の樋口先生は、注目の長寿命モデル動物、短寿命モデル動物、そして老化促進モデルマウス（SAM）について、また増木先生は、インターバル速歩のヒトにおける効果の研究成果についてご講演されました。「健康のために1日1万歩、歩きましょう」という言葉はよく耳にしますが、1日1万歩よりもインターバル速歩の

ほうが、血压をはじめさまざまな測定値を改善させる効果があることをヒトで示されました。樋口先生はインターバル速歩の効果をSAMでご検討中であること、さらに両先生は、インターバル速歩による炎症に関係する遺伝子のDNAメチル化の変化を検討されており、今後の成果が楽しみです。



慶應大学の新井先生は、百寿者とその子孫という、試料収集が非常に大変である貴重な検体を調べて見いだされたスーパーセンテナリアンの医学生物学的特徴をご講演されました。免疫細胞の解析で見いだされた特徴など今後の展開が楽しみです。



東京都健康長寿医療センター研究所の増井先生は、幸福感という、その実体がなんであるか、その定義や評価が難しいと思われることを扱われ、「超高齢者・百寿者の幸福感の高さの謎に迫る」というタイトルで、ご講演されました。自分は健康栄養学科(管理栄養士養成課程)に所属していて、食品の機能に3つあることを知りました。第一次機能は栄養にかかわる機能、第二次機能は嗜好(おいしさ)に関する機能、第三次機能は生体調節機能です。ある食品が体に良いとわかっていても不味ければ箸がすすまないように、健康長寿とは、身体が健康で



連絡先：前原佳代子

〒635-0832 奈良県北葛城郡広陵町馬見中 4-2-2

TEL：0745-54-1601

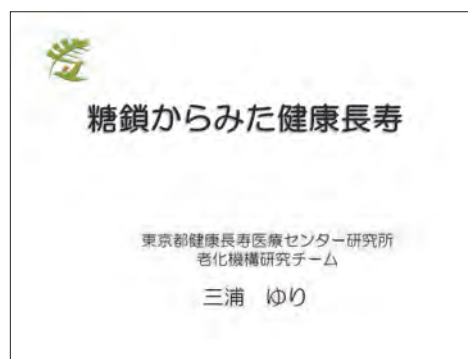
FAX：0745-54-1600

E-mail：k.maehara@kio.ac.jp

ある、介護なしの寿命（健康寿命）が長い、さらに幸福
感が高いこと、これらがそろって完全になるのだろうな
と感じた次第です。健康長寿研究には、欠かせない研究
課題であることを認識しました。



東京都健康長寿医療センター研究所の三浦先生は、遺
伝子に拠らない、酵素によって合成される糖鎖について、
各年代のヒトの検体を比較し解析されました。超百寿者
にみとめられる糖鎖の特徴を見出し、またそのような糖
鎖がついているタンパク質を同定されました。これが究
極の老化指標になるのか、今後の展開が楽しみです。



今回のシンポジウムでは、講演視聴後に参加者をご講
演された先生方に質問を送り、そのフィードバックを受
けることができました。学会会場での質疑応答にかわる
ものを事務局にご準備いただき、意見交換ができました。

新型コロナウイルス感染症で、今年は多くの学会が
WEB 開催になっています。日本基礎老化学会の丸山会
長をはじめ、事務局や運営にかかわる先生方、ご講演者
のご尽力により、研究の交流の場を WEB 開催で学会員
に提供してくださったことに感謝いたします。